



# 秋の風物詩を訪ねて

「今日は二十四節季の一つ、清明」。

今年の春、朝のラジオから流れるこの言葉を聞いたとき、長かった冬がやっと終わりを告げ、明るい光が一気に溢れ出す様子が目に浮かんで「春がきた!」と、心躍る気分になりました。思えば先人は、自然への感謝の念を抱きつつ、季節の移り変わるさまを愛で、短い文字や詩の中にその思いを込めてきたのでしよう。「日本人の感性は、四季が育んでくれたのかもしれない」と、今更ながら四季のある国に生まれたことを喜びました。

ところが、近年は春夏秋冬のサイクルも少々乱れ気味です。短い梅雨の後、連日の30℃を超える猛暑は衰えることを知らず、衣替えは当分先と思いついていた矢先、台風一過、突然秋がやってきた今年。徐々に深まっていく秋を肌で感じる間もなく、暦のうえではもう冬です。とはいえ、澄み渡った高い空と栗や松茸など秋ならではの贅沢をもうちょっとゆっくり楽しませていただきたいものです。

そんな思いから、先日、小さな秋を探しに京羅木山の中腹にある“干し柿の里「東出雲町畑地区」を訪ねました。集落の中心にある公会堂に車を停めて辺りを見渡すと、そこは柿一色の別世界。皮をむかれて紐に吊るされた西条柿が3階建ての柿小屋に整然と並べられ、丸々とした実は陽の光をいっぱい浴びていました。白い果糖を身にまとった上質の干し柿になるまでにはもう少し時間がかかりそう



ですが、畑の柿の木にも橙色の実が残っている今が景観を楽しむには一番よい季節です。

畑地区の景観を独特なものにしているのは、柿を乾燥させるための四方ガラス張りで3階建ての柿小屋。昭和49年に出版された「畑のほしがき」(畑乾柿生産組合発行)によると、文化6年(1809年)に初めて作ったという記録と図面が残っているというから驚きです。中海からの季節風が斜面に沿って吹き込み、霜が発生しにくく乾燥しているという恵まれた自然条件を活かして、江戸時代から続く伝統の製法でじっくりと仕上げていくのだそうです。“飴色の宝石”と絶賛される畑ほし柿。その芳醇な甘さとやさしい食感を思い浮かべ、食べ頃となる12月が待ち遠しくなりました。

昔はどここの家の庭先にも柿の木があり、軒下に吊るされた干し柿は晩秋の風物詩だったような気がします。子どもの頃、近所の人からもらって初めて食べた干し柿は、家族で囲んだコタツの上にありました。思い出すと温かい気持ちになる四季折々の風景が、きっと誰しもあるのでは。しみじみと、過ぎゆく秋を思いながら、迎える冬の楽しみを数えたい気持ちになりました。

東出雲図書館長 本多千景

CHIDORI No.93

松江市立図書館だより  
編集・発行/松江市立中央図書館  
〒690-0017 松江市西津田六丁目5-44  
☎ (0852) 27-3220  
2013年12月・冬号  
https://www.lib-citymatsue.jp/  
E-mail: chuou@lib-citymatsue.jp

## ストーリーテリングにおすすめの本



### 内容

- 表紙 ストーリーテリングにおすすめの本
- 見開き 子どもの心に届ける語り 松江市立図書館のストーリーテリング
- 裏表紙 郷土の葉『秋の風物詩を訪ねて』  
図書館からのお知らせ

## 図書館からのお知らせ

### 冬休み子ども映画会

とき 1月6日(月)  
14:00~15:30

ところ 視聴覚室

アニメ「赤毛のアン」を上映します。

中央図書館では「ブックカート」と「かご」をご用意しています。本を選ぶときに、重たい本を持ちながらは大変です。ぜひご利用ください。



島根図書館 | 松江市島根町加賀1414番地(島根公民館併設)  
TEL (0852) 85-9088 E-mail: shimane@lib-citymatsue.jp

東出雲図書館 | 松江市東出雲町掛屋1139番地2(東出雲ふれあい会館内)  
TEL (0852) 52-3297 E-mail: higashiizumo@lib-citymatsue.jp



# Q&A

## ★ストーリーテリングってどんなものですか？

**A** 絵のないお話、「すばなし」のことです。語り手が、本や絵本のおはなしを覚えて、みんなに語って聞かせることです。

## ★どんなおはなしを語るんですか？

**A** 日本やいろいろな国の昔話が多く語られます。もちろん新しく創作されたお話もありますよ。

## ★どんなおはなしが人気がありますか？

**A** 「とりのみじい」「アナシンと五」「かしこいモリー」「ホットケーキ」などが子ども達に大人気です。

## ★どこで聞くことができますか？

**A** 図書館2階の和室で行われる「ストーリーテリングの日」に楽しむことができます。



「おはなし」を聞くときには、「おはなしのろうそく」に火を灯します。最後に、その日の誕生日の人が「おはなしのろうそく」を消すことができます。ろうそくの火が消える時に願い事をすると、きっと叶うと言われてますよ！

## ストーリーテリングの日

松江市立図書館では現在、5つのグループが月に一度、図書館2階でおはなし会を開催し、おはなしを届けています。子どもはもちろん大人も楽しめます。毎回、楽しみに来てくれるお友達もいますよ。ぜひ、聞きに来てくださいね。



- おはなしバウム …… 毎月第4土曜日 10:30～
- おはなしもみの木 …… 毎月第1土曜日 10:30～
- おはなしどんぐり …… 隔月第2土曜日 10:30～
- おはなしたんぽぽ …… 毎月第3土曜日 14:00～
- おはなしさくらんぼ …… 隔月第2土曜日 10:30～



※日程が変更になる場合があります。HP等でご確認ください。

# 子どもの心に

# 届ける語り

## 松江市立図書館のストーリーテリング



わらをつむいで金にする小人にたすけられた粉屋の娘は、王妃になります。(グリムの昔話「ルンペルシュティルツヘン」)

昔話を楽しんで聞き、まるごと受けとめる子どもたちの柔らかい心の中には『ふしぎ』の住める部屋がたくさんできていきます。ものいう動物でも、鬼でも妖精でも……。成長していく過程で『ふしぎ』はその子の中から出ていくでしょうが、のちに人として大切なものを宿す部屋がそこにはちゃんと残されています。人から人へと長い間語り継がれてきた昔話は、生きる力や希望を与えてくれますが、子どものときにこそ楽しんで聞いてほしいものです。



## おはなし出前紹介

一年間、「語り手養成講座」(講師：宇田祥子さん)でストーリーテリングの講習を受けた語り手が、松江市内の小学校や幼稚園に出かけておはなしを語ります。平成15年度の1期生から始まり、6つの語り手グループがあります。毎月出かける幼稚園や、学期に1回全学年におはなしを届ける小学校など、要望にお応えしています。6年間聞き通してくれた子どもたちは、すばらしい聞き手になると同時に、読書の世界にも足を踏み入れてくれています。今年度は、市内の幼稚園21園、小学校26校へ届けています。

情報社会で、いろいろなことを知りすぎ、理屈に走りやすい子どもも、目を合わせ、生の声で語られるおはなしが始まると、おはなしの主人公とともに空を飛んだり、はたまた、かえると話すお姫さまになったりします。松江市立図書館では、これからも子どもたちに、おはなしを楽しむひとときを送り続けたいと思っています。



語ったおはなしののっている本を紹介すると、すぐに借り手があらわれます。



## 子どもとともに楽しむ世界

おはなしもみの木 高橋 洋子

「みんなは末永く幸せに暮らしました。」とお話が終わると、会場は、ほっとした表情を浮かべる子、にこっとする子、ため息をつく子など、いろいろである。語り手がちょっと間をおいて「おしまい」と言うと子どもたちはやっと我に返り、拍手をする。お話出前に行った学校でいつも体験する情景である。お話が始まると、子どもたちは物語の世界にずんずん入っていき、主人公と共に、楽しんだり悲しんだりわくわくしたり冒険したり。物語の世界にどっぷりつかった子どもたちは、瞬きもせず、息も止めているかのような表情で語り手の口からでる言葉を待つ。その息遣いを感じながら、語り手も共に物語の世界を創り出す時間、その世界を子どもたちと共有する素晴らしいひと時である。

「もみの木」も松江市立図書館の語り手養成講座を受講してから早十年を迎えた。毎月図書館2階和室で実施しているおはなし会も来年1月には100回を迎える。今夏十周年記念おはなし研修会を開催し、これまでの歩みを振り返り新たなステップアップを誓う場とした。これからも、良いお話を選んで覚え、子どもたちが全身で聞き入るようなお話出前になるよう努めていきたいと思う。

なお、この子どもたちにとっても語り手にとっても楽しみのお話出前活動が続けられるのも、市立図書館の方で学校と語り手グループの間に立ってお世話していただくおかげといつも感謝している。



## ストーリーテリングにおすすめの本

- 「三びきのこぶた」 瀬田貞二訳 山田三郎画 福音館書店
- 「世界のむかしばなし」 瀬田貞二訳 太田大八絵 のら書店
- 「子どもに語るグリムの昔話①～⑥」 佐々梨代子・野村法訳 こぐま社
- 「日本昔話百選」 稲田浩二・稲田和子編著 三省堂
- 「愛蔵版おはなしのろうそく⑨ ホットケーキ」 東京子ども図書館
- 「子どもに聞かせる 世界の民話」 矢崎源九郎編 実業之日本社
- 「かさじぞう」 瀬田貞二再話 赤羽末吉画 福音館書店
- 「ババヤガーのしろいとり」 内田莉紗子再話 佐藤康良画 福音館書店
- 「日本の昔話④ さるかにかっせん」 おざわとしお再話 赤羽末吉画 福音館書店
- 「イギリスとアイルランドの昔話」 石井桃子編訳 J・D・バトン画 福音館書店

